

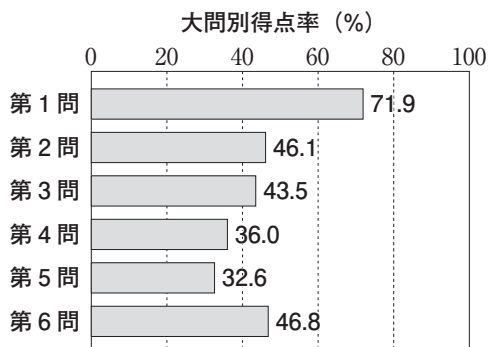
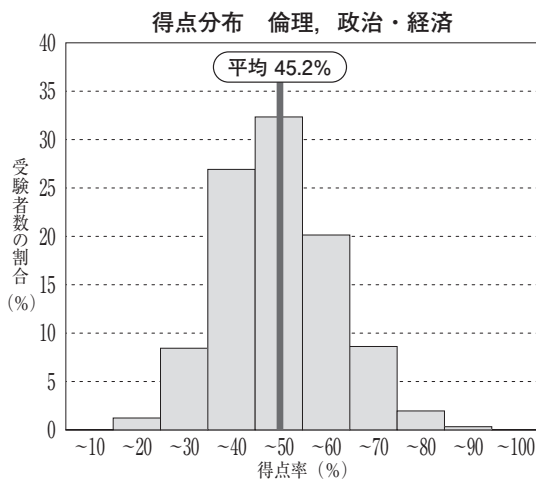
# 倫理, 政治・経済

未修分野について何も知らないという状態から、一刻も早く抜け出そう。

## I. 全体講評

今回の2017年度「第4回8月センター試験本番レベル模試 倫理, 政治・経済」の平均点は、45.2点であった。

今回の最大の特徴は、政治・経済分野（第4問～第6問）が目立って不出来であったことである。最大の理由は、国際政治および国際経済という、学習者が終盤に学ぶテーマが多かったことであろう。言うまでもなく本番ではこうしたテーマからも出題されるので、きっちり学習しておかなければならない。早めに全分野に目を通しておくようにしてもらいたい。



## II. 大問別分析

### 第1問 青年期分野・現代社会分野

読解問題などを中心に高い得点率だった。

大問の得点率は71.9%と、高かった。特にグラフや文章の読解問題は多くの受験者が正答できている。しかし、ベルクソン、マルクス、リースマンについての知識が求められた問4 [4]だけは、正答率が37.0%と、低かった。

### 第2問 源流思想・日本思想分野

8択の組合せ問題の正答率が低い。

大問の得点率は46.1%と、振るわなかった。特に正答率が低かったのは、国学者たちの思想が問われた問5 [10]と、3つの文の正誤の組合せを問う問3 [8]である。組合せ問題は8択となり、しかも消去法が使えないことから、どうしても正答率が低くなる。正確な知識をものにしておきたいところだ。

### 第3問 源流思想・西洋近現代思想分野

8択の組合せ問題で苦戦した受験者が多い。

大問の得点率は43.5%と、倫理分野では最も低かった。問5 [17]と問6 [18]の正答率が突出して低かった。問5はサルトルについての空欄補充、問6はハーバーマス、アドルノ、フーコーについての正誤組合せと、やはりいずれも8択形式であった。内容上の難しさもあったが、消去法が使えないこの形式は本番でも正答率が低い。正確な知識を身に付けることが必要である。

### 第4問 国際通貨体制、為替

国際経済の理論については、まだ基本が理解できていない受験者が多い。

大問としての得点率は36.0%と、低かった。特に問3 [22]と問4 [23]は、正答率が2割前後にとどまった。前者は比較生産費説、後者は国際収支と、いずれも国際経済の理論に関わるテーマである。分野的に未修の受験者も多かったと思われるが、比較生産費説などは腰を据えて学ばないと難し

いテーマなので、しっかりと学習してもらいたい。

### 第5問 国際連合

**国際政治についても基本事項が身につけていない受験者が多数を占めている。**

大問としての得点率は32.6%と、大問中最も低かった。問1 [28]では国際連盟が勢力均衡方式を採用した国際機関であるとする解答が半数近くを占め、問2 [29]ではPKOが国連憲章に規定されているとする解答が約6割を占めるなど、基本中の基本が理解できていない受験者が多い現状が浮き彫りになった。

### 第6問 地方自治

**政治・経済分野では最も上出来だったが、得点率は50%にも届かなかった。**

大問としての得点率は政治・経済分野で最も高かったが、それでも46.8%にとどまった。最も正答率が低かったのは地方自治体における直接請求権についての問4 [36]である。消去法の使えない出題形式だったので苦戦した受験者が多かったと思われる。直接請求権については、初学者は細かく感じるころであろうが、一度身につけてしまえば絶対に失点しないので、確実にものにしておこう。

## Ⅲ. 学習アドバイス

**◆初学者や選択科目変更者は、決して「倫理, 政治・経済」を甘く見ないこと。**

公民科目は夏場から白紙の状態での学習を開始する高3生が多い。またこの時期には、選択科目を変更する者も少なくない。地歴から「倫理, 政治・経済」に移って今回初めて模試を受けたという受験者もいたことだろう。もちろん科目変更で成功する者はいる。しかし単に「日本史が伸び悩んでいるので」とか「世界史は暗記しきれないので」といった消極的理由で科目を変更する者は、痛い目に遭うことが多い。厳しいことを言うようだが、大半は、当初の見込みよりも結果的に低い点数しか取れない。この時期に科目を変更するということはそもそも見通しが甘かったわけであるし、同じように甘い見通しで「倫理, 政治・経済」を甘く見るならば、厳しい結末を迎えてしまうことだろう。

「倫理, 政治・経済」は、「倫理」と「政治・経

済」という2科目分を学習しなければならない。しかも世界史や日本史と違い、高校で受験対策が行われるケースは極めて少ない。だから、ほとんどの高校生が考えるよりも大変な科目なのである。希望の観測に基づいて甘い見通しを抱かないほうがいい。

根拠のない楽観が冬場あたりに絶望に変わるというのは、受験界の恒例だ。くれぐれも甘く見ずにしっかり対策を立ててほしい。

**◆現時点の実力を直視しよう。**

ではどうすればいいのだろうか。初学者は、まず今年のセンター本試験の問題をすぐに問いてみよう。そして今回の模試の結果と合わせて、いまの自分がどれくらいの実力なのかを直視しよう。あるいはどのくらい実力がないのかをよく認識しよう。そうして自分の何が不足しているのか、課題を見つけてみよう。

自分の実力のなさを知るのには愉快なことではないが、「無知の知」から始めなければならない。根拠のない楽観論と悲観論をしりぞけ、現実を直視することから、受験勉強は始まる。